

真宗大谷派 三河別院



- 名鉄東岡崎駅(北口)より徒歩15分。
- 路線バスは、三河別院前(中町循環系統、朝・夕のみ)または徳王神社前(市民病院行など)をご利用ください。

【納骨と永代経のご案内】

- ◆納骨(納め時に読経)
 - ・七万円以上 本堂へ納骨します。
 - ・三万円以上 光雲殿へ納骨します。
- ◆永代祠堂(毎月ご命日読経)
 - ・五万円以上 祥月命日 10年間のご案内
 - ・十万円以上 祥月命日 15年間のご案内
 - ・十五万円以上 祥月命日 20年間のご案内
 - ・三十万円以上 祥月命日 30年間のご案内
 - ・五十万円、百万円以上 特別読経
- ◆ご案内
 - ・受付は午前九時三十分から午後二時三十分までです。
 - ・土曜日午後、日曜日、祝日はお休みとさせていただきます。
 - ・年末年始は、お休みさせていただきます。
 - ・詳しくは、三河別院寺務所までお問い合わせ下さい。

真宗大谷派 三河別院
 〒444-0015 岡崎市中町野添25
 TEL 0564-21-0625 FAX 0564-21-0728



戦前の伽藍を伝える「旧観図」(三河別院蔵)

三河別院全圖

三河別院の伽藍は、寛文十三年(1723)に建立された。本堂は、徳川家康公の御廟所として、寛文十三年(1723)に建立された。本堂の裏には、徳川家康公の御廟所がある。本堂の前には、徳川家康公の御廟所がある。本堂の裏には、徳川家康公の御廟所がある。本堂の前には、徳川家康公の御廟所がある。

【行事案内】

- 修正会** 一月一日
私にかけられた仏祖の願いを聞き、一年の間法精進の道を歩みだすための法要です。
- 報恩講** 三月三日〜八日
宗祖親鸞聖人の祥月命日の法要であり、真宗門徒にとつて最も大切な法要です。本山では、十一月二十日から八日間勤められます。
- 春季彼岸会** 春分の日前後
仏法を聞きひらいて、浄土の諸仏となつた先人の願いを確かめる仏事です。
- 蓮如忌** 四月二十三日〜二十五日
真宗再興の祖として敬われる蓮如上人の祥月命日の法要です。
- 夏之御文** 七月十四日〜十七日
「なつ」の御文ではなく、「げ」の御文と読みます。蓮如上人が書かれた四通の御文を拝聴します。
- 暁天講座** 八月一日〜三日
一年で最も暑い季節、早朝の爽やかな時間に仏法を聞く集いです。多くの聴講者でにぎわっています。
- 秋季彼岸会** 秋分の日前後
別院の興隆に力を尽くされたご門徒の苦勞をしのび、感謝をささげる法要です。
- 報徳会** 十一月十一日〜十三日
別院の興隆に力を尽くされたご門徒の苦勞をしのび、感謝をささげる法要です。
- 両度の御命日** 毎月十三日、二十八日(連夜は前日)
十三日は、東本願寺前門首闍如上人、二十八日は宗祖親鸞聖人のご命日です。

三河別院の

あゆみ

三河別院は、真宗大谷派（東本願寺）の三河地域の別院です。

三河地域は宗祖親鸞聖人とのゆかり深く、蓮如上人の熱心な説法により早くから大きな真宗門徒の勢力を築いた地です。三河別院は長い歳月の中を門徒とともに生き、その役割と使命を果たしてきました。



◆「御坊」から「別院」へ

江戸時代、地方の門徒のお世話をする真宗大谷派の拠点として、「御坊（ごぼう）」がありました。御坊とは、十七世紀以後、本山に準ずる格式として設けられた寺院で、明治時代になると、「御坊」の名称は「別院」と改められ、それが今日に至っています。

やがて十八世紀の後半、海上交通の要路でもあった西三河南端、赤羽に赤羽御坊が建立されます。しかし、天明八年（一七八八）に本山が焼失したため、その支援をおこなう三河の拠点として東海道沿いの暮戸に会所が設置されました。以後、この暮戸が西三河の中心的な拠点となってきました。

明治になり、本山両堂再建のために赤羽別院と暮戸説教場（会所改め）を岡崎に移し、三河別院とするという通達が、厳如（ごんによ）上人御議職前日の明治二十二年（一八八九）十月六日に出されます。しかし、地元門徒が存続を願い出たため、赤羽と暮戸からの移転は取り止めとなります。その代わりに、丹後峯山別院の本尊を移して三河別院となし、明治二十三年（一八九〇）四月八日、御入仏法要が厳修されました。

その後、数々の変遷を経ながらも、三河別院は当地随一の念仏道場として、僧侶門徒の育成や教学振興、幼児教育、布教伝道活動などに大きな役割を果たしてきました。



◆ひらかれた別院として、地域とともに

第二次大戦中、本堂が焼失。再建と境内地の整備が完了したのは、昭和六十三年（一九八八）のことです。その感謝法要の厳修を機に、とくに、①別院の年中行事の手引きをつくり、法要儀式、荘厳などが寺院の法要儀式荘厳教化の参考になることを期すこと。（儀式の執行の面）②寺族子弟の声明および諸作法習得の場として研修生制度を設けるとともに、門徒の方々への声明指導並びに寺院の法要儀式の助勢を行うこと。（僧侶および門徒の教化育成の面）、の二点に力を注いできました。また「ひらかれた別院」を願い、夏の盆踊り大会や講演会、各種展覧会等を定期的にひらき、地域社会に密着した交流活動を図りながら、次代に求められる別院像を模索してきました。

今後は、二〇〇七年四月に行われた「蓮如上人五百回御遠忌法要」を縁として、三河地域の寺院門徒の教化の中心地となる別院をめざし、歩みを進めてまいります。
（三河別院蓮如上人五百回御遠忌法要記念誌より抜粋）



【別院の略年表】

- 二三五年（嘉禎三年） 親鸞聖人、関東より帰洛の途中、三河・矢作柳堂で教化
- 一四六八年（応仁二年） 蓮如上人、三河巡化
- 一七八八年（天明八年） 本山（東本願寺）焼失
- 一八九〇年（明治二十三年） 厳如上人の通達により丹後峯山別院を三河国岡崎に移し、三河別院と改称、入仏法要
- 一九〇九年（明治四十二年） 本山旧大師堂の下附を受け、本堂入仏法要
- 一九二五年（大正十四年） 燕岡幼稚園（現燕ヶ丘保育園）創設
- 一九四五年（昭和二十年） 太平洋戦争においての空襲により伽藍の大半を焼失
- 一九六五年（昭和四十二年） 本堂上棟式、復興永代経
- 一九七〇年（昭和四十五年） 本堂入仏法要（現在の本堂）
- 一九八八年（昭和六十三年） 三河別院開創百年、親鸞聖人七百回御遠忌法要、庫裡・書院・土塀等新築
- 一九九五年（平成七年） 蓮如上人五百回忌お持ち受け法要、立教開宗七百五十年慶讃法要、宗祖厨子修復、東別院会館新築
- 二〇〇七年（平成十九年） 三河別院蓮如上人五百回御遠忌法要厳修

